



兵庫県隊友会

隊友会県本部だより

発行責任者：兵庫県隊友会長 小川 祥一

編集責任者：中筋 功二

兵庫県隊友会事務局：宝塚市ふじが丘23-6

☎090-2708-3451



ご挨拶

兵庫県隊友会長

小川 祥一

残暑お見舞い申し上げます



令和3年度定時総会について

6月13日(日) 県民会館で開催予定であった定時総会は、コロナ禍の感染防止を第一と考え昨年に引き続き、中止となり議決権の代理行使方式といたしました。

各支部に質問・意見をメール等により、予め求めたところ、異議がありませんでした。

①第1号議案

「令和2年度事業報告及び決算報告の承認に関する件」

②第2号議案

「令和3年度事業計画及び予算書の承認に関する件」

同定時総会で、議決権の代理行使をされた方

会員数 (3月末日)	1,198名
全議案に一任	895名 (69.7%)
全議案に賛成・反対	0名

兵庫県隊友会規約第18条1.2.4項、第21条及び第22条により、両議案は成立いたしました。

引越見積支援サービス事業について

事務局長 小林 一吉

はじめに

令和3年7月から県隊友会は、「隊友会の見える化」施策の一つとして「引越見積支援サービス」を開始いたしました。その概要についてお伝えいたします。

1 経緯及び現況

- (1) 令和2年6月より、引越料金は隊員の実費払いとなった。隊員は3社以上から相見積を取る必要があり、どの業者と契約するかは隊員の自由であるが、領収書の金額に関わらず最も低い見積額が金額が支給される。



(2) 隊員は見積依頼を個別に行うことなく、隊友会への申し込み一つで、引っ越し業者3社の見積書を得ることができる。異動する隊員は転属先の会計隊において、領収書と3社の見積書を提出し、清算を受ける。
(領収書の金額に関わらず、見積の最も低い金額が支給される。)

(3) 県隊友会は、協定を各駐屯地・基地隊の共済支部と締結することで、令和3年6月から厚生センター等に、県隊友会への「申込書」の設置が可能になった。また状況により駐屯地での引越相談会開催も可能となった。

なお、申し込み用紙は、隊友会HPからもダウンロード可能。

(4) 支部担当者は隊員からの申込書 (FAX・写メ・PDFデータ・手交等で入手) を受領し、3社または4社にFAX送信するとともに申込者名簿を県本部に提出する。

(5) 8月定期異動では県下で約10名の利用者 (隊友会幹旋契約結果は現時点では未確定) があった。

2 各支部の担当区分

(1) 伊丹・宝塚・川西地域支部 (担当者募集中)
伊丹、千僧及び川西駐屯地共済支部

(伊丹共済支部：6月22日協定締結、千僧共済支部：6月28日協定締結、川西共済支部との協定締結は8月中予定)

(2) 神戸東支部
阪神基地隊共済支部 (6月28日協定締結)

(3) 東播支部
青野原駐屯地共済支部 (6月28日協定締結)

(4) 姫路支部
姫路駐屯地共済支部 (6月28日協定締結)

(5) 県本部
兵庫地本及びその他 (空自2補分室・近中防衛局分室ほか)

以上、問い合わせは県本部まで。

栄えある受章おめでとうございます

第36回危険業務従事者叙勲受章者

令和 3年 4月 29日付 (敬称略順不同)

瑞宝双光章

糸瀬 祐明 (姫路市)	大橋 哲夫 (宝塚市)
小西池 守 (西脇市)	陶山 剛司 (伊丹市)
田中 明 (たつの市)	長田 秀明 (伊丹市)
中山 隆史 (伊丹市)	細貝 寛徳 (加古川市)
三島 亮一 (加古川市)	森下 一男 (伊丹市)

瑞宝単光章

石原 博 (尼崎市)	川端 上 (尼崎市)
岸本 充 (宝塚市)	木田 高志 (伊丹市)
長田 昌之 (姫路市)	

令和 3年度表彰受賞者

本部会長表彰

柏原 道央 (丹波)
堤 勝行 (東播)
山本 健治 (阪神)
80歳以上の部
郡司 友幸 (姫路)

県会長表彰

山口 明宏 (淡路)	田坂 久美子 (東播)
藤原 克典 (伊丹)	高倉 慧喜 (東播)
瀬戸口 博昭 (伊丹)	細貝 寛徳 (東播)
樋口 隆 (伊丹)	椎葉 誠司 (阪神)
小林 広道 (伊丹)	北井 いくみ (姫路)
原田 孝夫 (神戸東)	松本 賢 (姫路)
杉原 弘通 (丹波)	

県会長感謝状

長山 敦子 (姫路)

※ (伊丹) 伊丹・宝塚・川西地域

支部便り

自衛官募集看板「設置・改修」支援

但馬支部長 西村 秀樹

但馬とは、兵庫五国の内の一つで兵庫県の北部に位置し豊岡市・養父市・朝来市・香美町・新温泉町からなり広さは、東西南北約60Kmに亘り、県の約四分の一を占め、東京都の総面積に匹敵します。

但馬には、自衛隊家族会・自衛隊協力会及び隊友会があり、兵庫地方協力本部豊岡出張所の諸活動を支援しています。毎春、自衛隊協力会が主催し、家族会・隊友会が後援で、「入隊予定者激励会」が盛大に開催されています。しかし、コロナ禍の感染防止の為、昨年に引き続き、今年も残念ながら開催出来ませんでした。代わりに3団体より激励品を入隊予定者の皆さんへ贈呈しました。入隊予定者の皆さんに利用して頂ければ幸いです。

年々自衛隊の活躍が報道され、関心が高まっていますが、但馬地区の広い地域では、募集活動は大変です。

自衛官募集看板は、この広い但馬一円に設置されていますが、老朽化の目立つ物もあり、改修支援を家族会・協力会及び隊友会、三者合同で実施しました。また、新たに大きめの募集看板も設置できました。学生の皆様を始め、地域の皆様に対して、「自衛官募集」という、意図の重要性と、防衛意識の向上等、看板を通して、自衛隊広報が少しでも伝えられれば幸いです。今後も新たな、自衛官募集看板設置等を支援して行きたいと支部会員一同思う所存です。

最後になりますが、会員の皆様のご健勝と、コロナ禍が少しでも早く終息することを但馬支部一同祈念いたします。



な～るほど・ザ・雑学

姫路支部事務局長 古西 真吾



残暑お見舞い申し上げます

皆様にはコロナ感染症防止対策を取りながら支部諸活動に邁進されていることと思います。

今回は、趣を変えまして“な～るほど・ザ・雑学”ということで紹介したいと思います。

私たちは普段さまざまなものに囲まれて生活しており、そもそもそれらにどんな成り立ちがあったのか、意外なほど知らないことが多い。当たり前のように習慣になっていることでも、その歴史やルーツをたどっていくと、意外な事実に出くわることがあります。

それでは早速始めましょう。

さて、最初は、**お正月のあいさつが、「おめでとう」の理由とは？**

なぜ新年になると「おめでとう！」とあいさつするのだろうか？ むろん1年を無事に乗り切り、新しい年を迎えられたことをおめでたいとする意味もあるが、日本人として、もとは「おめでとう」という言葉には別の意味が込められていた。

農耕民族である日本人にとって、正月行事は農業と密接なつながりを持っていた。昔の人は新年になると「年神」が家庭に降りてくると信じ、その神に新しい年の豊作を祈るため、門松を飾り神の降臨を待った。年末に餅をつくのも日本が稲作国家で、その餅を供えて神に食べていただき、自分たちも同じものを分け合って食べる。そうすることで神の福にあやかり、新年の豊作を祈るとするのが本来の正月行事だった。したがって、「おめでとう」は、農業に関する言葉であり、「芽出度う」に由来し、作物の芽がたくさん出て実りある年になりますように、という願いがこめられた言葉だった。

次は、「@」記号のルーツ「at」・・・は誤解です。

今や、すっかり世の中に定着した記号、「@（アットマーク）」、これは電子メールのアドレスで前半の「個人名」ともいうべき部分と、後半の「ドメイン名」を区切るための重要な記号だが、これを「英語のatを一文字にまとめたもの」と思っている人がほとんどではなかろうか。

たしかに「at」には「場所」や「所属」の意味があるから、そう考えてしまうのも当然、だが「@」は「at」ではなく、古代ギリシャやローマで使われていた素焼の壺「amphora（アンフォラ）」の頭文字に由来し、のちに単価を表すようになったラテン語の文字「@」のこと。

これがメールアドレスの一部に使われるようになったのには、意外ないきさつがある。

メールシステムの開発に携わった人物が、個人名とドメインを区別する必要性に気づいた。だが、その境目に数字やアルファベットを入れてしまうと、それがアドレスの一部のようになり区別がつかなくなる。それで新たに記号をデザインしようかと思ったが、普及するには時間がかかる。そこで英文タイプのキーにもともとある「@」の文字を使うことにした。英文タイプにある「@」のキーは使用することがほとんどなく、それを逆に利用し、個人名とドメイン名を区別する目印として手っ取り早く普及するだろうと考えた。結局はその読みどおり、「@」の役割はすぐさまインターネットの世界で認知されていった。ただ「アットマーク」という呼び方は外国では通用しない。あくまでも和製英語であり「at sign（アットサイン）」、「at symbol（アットシンボル）」などと読まれている。

次は、なぜ日本は自動車が左側通行なの？

「人は右、車は左」という交通ルールは、ご存じのとおり世界共通のものではない。

多くの国々では車は右側通行で、左側通行を採用しているのは日本やイギリス、オーストラリア、インドなど世界の国々のうち四分の一ほどしかない。

明治時代以前、日本には決められた交通規則などなかったが、帯刀した武士たちはもっぱら左側を歩いていたという。もし武士が道の右側を歩いていると、攻撃された場合、右側がふさがっているのは刀を素早く抜けないし、戦いにくい。そのため武士は自然に左側を歩くようになり、荷車などもそれにならって左側通行したという。

明治になってもこの習慣は残り、明治22年の「人力車営業取締規則」において、人力車が行き交うときは左側に避けるよう定めた。そして明治33年、人も車も左側通行となった。

このルールは約半世紀続いたが、戦後になって自動車が増え、道路状況も変わっていく。

GHQの命令をきっかけにして、昭和24年「道路交通取締法」が一部改正され、歩行者は右側通行となった。これが現在の日本の交通規則の基本となった。つまり日本で自動車が左側を走るようになったのは、「武士の占めて

いたポジションが自動車にとって代わられたため」とも言える。武士帯刀の習慣は、実は現代の交通規則にまで影響をおよぼしていたのである。

次は、飛行機の中は「船から引き継いだ伝統」がいっぱい！

旅客機に乗り込む際は、いつも左側の搭乗口を通っていることにお気づきだろうか。

機体の左右両側にドアがあっても、決まって乗客は左側から機内に入る。これはなぜかという旅客機が「船」の伝統を引き継いでいるためだという。

14世紀頃まで大型船は船体の右側に舵を突き出しており、右舷を岸につけることができなかった。そのため人の乗り降り、荷物の積み下ろしも、すべて左舷から行っていた。

ちなみに左舷のことは英語で、「ポートサイド」というが、直訳すると「港側」という意味になる。やがてスクリュープロペラ装置が開発され、船の構造、舵の位置も変わると右、左舷どちらでも接岸できるようになったが、それでも左舷を接岸する習慣は残り、旅客機もこれに倣って左側から乗り降りさせている。

旅客機は長らく船が担ってきた大量輸送の役割を引き継いだため、船における航法や用語も数多く使われている。船は右側航行を基準としているが、これは右側に突き出た舵が向こうからやってくる船の舵とぶつからないようにするためであり、旅客機も空の右側を通るのが基本で、ニアミスしそうになったら右側によけるといったルールもある。また、旅客機を「シップ」、機長を「キャプテン」、乗組員を「キャビンクルー」と呼ぶのも船舶用語からきている。

なお、機体の右側にあるドアはべつに飾り付けでついているのではない。一般に「サービスドア」と呼ばれ、機内食や販売品の積み下ろし、清掃など業務上の出入り口として使われている。

万が一の時は非常用脱出口として使われるというが、乗客の立場としては通りたくないドアと言える。

以上で終わりますが、今回は“な～るほど・ザ・雑学”ということで紹介しました。少しでも参考にしていただき、ご自慢の話題の一つに加えていただければ幸いです。

【参考文献】

- ・「なぜか一目おかれる人の大人の品格大全」（話題の達人倶楽部）
- ・今すぐ誰かに話したい「ウケる雑学」（「歴史ミステリー」倶楽部）

青野原演習場慰霊碑及び海軍航空隊鶉野飛行場跡地 祈念碑清掃・慰霊行事

東播支部事務局長 細貝 寛徳



青野原演習場慰霊碑

隊友会東播支部は、令和3年7月25日（日）支部長 石田真一他26名をもって青野ヶ原演習場に建立されている「殉職隊員慰霊碑」の清掃・慰霊行事を行いました。

（青野原演習場の慰霊碑は、姫路駐屯地から碎石等を積んで、演習場整備作業に向かう際、トラック横転による事故で亡くなられた、6名の隊員を追悼したものです。）

当日は、朝5時30分から草刈り機や剪定鋏により慰霊碑周辺の除草及び垣根の剪定を行い、その後、お寺の住職で支部理事役でもある高倉様に読経していただき、会員の焼香も行い無事慰霊行事を終了しました。

慰霊行事終了後、本年度総会を開催することが出来なかったことから、兵庫県隊友会会長表彰を伝達するとともに、東播支部長表彰を挙行し受賞会員の長年にわたる功績を称えました。



その後、加西市にある海軍航空隊鶉野飛行場跡地に建立する、「戦没者の祈念碑」周りの除草等を行い、演習場における追悼と同様に会員住職による読経を唱えて戦没者の追悼を行った。

この飛行場跡地は平成28年6月まで、青野原駐屯地業務隊が管理する演習場として各種訓練を行ってきた場所であり、東播支部の会員は少なからず思い出があります。また、海軍航空隊の飛行場滑走路のほとんどが、今日まで現存する旧軍史跡は国内にはないため、現在史跡公園として、加西市をあげて整備を行っています。



海軍航空隊鶉野飛行場跡地祈念碑

当初、隊友会東播支部は、青野原駐屯地業務隊が管理する、演習場に関する「慰霊碑」等の清掃の一環で始めた事業でしたが、加西市に払い下げられて以降も、戦没者追悼の志を胸に、この「祈念碑」周りの清掃は継続して行っています。

ここで簡単に姫路海軍航空隊鶉野飛行場、川西航空機製作所鶉野工場跡を紹介します。

第二次世界大戦の戦局が悪化しはじめた頃、優秀なパイロットを養成するため、昭和17年に着工し、昭和18年に完成した旧日本海軍の飛行場でした。

川西航空機鶉野工場では、姫路製作所で生産された局地戦闘機「紫電」「紫電改」が分解移送され、それぞれ486機、44機が鶉野で組み立てられました。昭和20年には神風特別攻撃隊「白鷺隊」が編成され、沖縄戦のために4月6日に初陣出撃し、前途有望な若者が大空に散っていきました。終戦までのわずか2年に満たない時間の中で、国防のため、青春をかけた多くの若者の姿があったのです。その歴史を後世に語り継ぐ役割として「鶉野平和祈念の碑苑保存会（2016年8月一般社団法人化）」が4つの活動方針『①「白鷺隊」戦没者等の慰霊顕彰、②鶉野飛行場に関する調査研究、③鶉野飛行場に関する記録の保存と継承、④（仮）加西市鶉野

ミュージアムへの支援』をもとに、以下の取り組みをおこなっています。

1999年10月に祈念碑の建立、毎年姫路海軍航空隊関係者を招聘して、祈念祭を開催（節目の年には、阪神基地隊及び青野原駐屯地第8高射特科群から支援も行われてきました。）、2014年10月に資料館が開設され、現在、震災用備蓄倉庫に「紫電改」の実物大模型も展示されています。またミュージアム建設検討委員の方々により、訪れる方々に戦争遺跡のありようについてガイドも行われています。特に、平和の願いを後世に伝えるため、中学生等の見学学習ガイドを積極的に行なわれています。

【東播支部は、現在計画されています加西市鶉野ミュージアム建設や平和祈念碑の移設が完了したならば、新型コロナの状況を鑑みながら、令和4年度のイベントの一つとして、姫路海軍航空隊鶉野飛行場見学を計画し、新たな史跡公園としての門出をお祝いし、確認したいと考えています。】

県本部主要活動状況 (令和3年1月～令和3年7月)

- 1月 中部方面隊音楽まつり (中止)
2月21日 支部長等合同会議及び第3回理事役会 (文書配布)
3月 入隊・入校激励会 (県内各地)
3月 練習艦隊入港歓迎行事 (中止)
4月 伊丹駐屯地創設記念行事 (中止)
5月 青野原駐屯地創設記念行事 (中止)
5月 第3師団創立及び千僧駐屯地創設記念行事 (中止)
6月 阪神基地隊開隊記念行事 (中止)
6月 兵庫県防衛懇話会 (中止)
6月 第1回理事役会 (文書配布)
6月13日 兵庫県隊友会定時総会 (文書配布)
6月24日 隊友会本部定時総会 (縮小開催)
7月6・7日 伊丹駐屯地「引越し相談会」
7月25日 青野原演習場殉職隊員慰霊 (東播支部)

物故者 (令和3年度拝承)

「謹んでご冥福をお祈りいたします」

氏名	所属	享年	他界日
吉川 博樹	東播	66	令和3年2月22日
赤阪 勲	神戸東	84	令和3年5月11日
金谷 英雄	姫路	90	令和3年9月1日
水本 晃	直轄	92	令和3年5月25日

人事往来 (発令順)

【主要幹部】

第3特科隊長 兼 姫路駐屯地司令

離任 1等陸佐 高倉 敬 (第3師団司令部)
着任 1等陸佐 小松 隆司 (補給統制本部)
3年3月1日付

中部方面總監部幕僚長 兼 伊丹駐屯地司令

離任 陸将 中野 義久 (第10師団長)
着任 陸将補 酒井 秀典 (第11旅団長)
3年3月26日付

兵庫地方協力本部長

離任 1等陸佐 生田目 徹 (施設学校副校長)
着任 1等陸佐 高岡 久 (陸上総隊司令部)
3年3月26日付

第36普通科連隊長

離任 1等陸佐 伊藤 博幸 (補給統制本部)
着任 1等陸佐 三島 健司
(陸幕指揮通信システム・情報部情報課)
3年8月1日付

主要行事案内

(令和3年8月～令和3年12月)

- 10月3日 中部方面隊創立記念行事
10月6日 鶉野平和公園祈念行事 (東播支部)
10月 第3師団殉職隊員追悼式
11月14日 姫路駐屯地創立記念行事
11月19日 兵庫地方協力本部創立記念行事
12月5日 小野ハーフマラソン支援 (東播支部)
12月12日 第2回理事役会 (県民会館303号室)
12月20日 姫路城清掃支援 (姫路支部)

編集後記

窮屈な生活が続く中、異例づくめの東京五輪も閉幕し、選手、大会運営を後方支援した自衛官はさることながら、事前登録した隊友を始めボランティア等には尊さを感じ得ません。

自衛隊体育学校からは、17名の選手が出場。柔道女子78キロ級で濱田選手「金メダル」、フェンシング男子エペ団体で山田選手「金メダル」、レスリング男子フリースタイル65キロ級で乙黒選手「金メダル」、ボクシング女子フライ級で並木選手「銅メダル」を獲得、この栄誉は歴史に刻まれ、国民、隊員及び隊友の誇りでもあります。

一日でも早く、正常な隊友会活動ができることを祈ってやみません。